

Tsuda Today

発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
電話 042-342-5113
FAX 042-342-5121
URL <http://www.tsuda.ac.jp>



本館改修工事を 実施しました！

本館校舎を夏期休暇中に改修しました。この建物は一九三二（昭和六）年に、小平へ移転した際、建てられたもので、既に七十二年が経過しています。二〇〇一（平成十三）年には「東京都選定歴史的建造物（選定番号三十八番、多摩地区では二番目）」に選定され、

その歴史的価値も高く評価されています。しかし、屋根瓦とスチール製の窓は、建築当時のものであったため、老朽化の問題は深刻なものとなっていました。本館は既に耐震補強工事を終えていたにもかかわらず、地震による瓦の落下事故が懸念され、その対応を急ぐ必要がありました。

また、スチール製の窓についても、錆のため、開閉に支障が出ており、無理な開閉による落下事故発生も心配されていました。危険回避の緊急対応は当然のことですが、長く親しまれてきた外観を損なわないことも重要と考え、次



のとおり工夫を施しました。

一 改修前の瓦は塩焼き瓦という特殊な瓦で、この瓦を焼くことができる窯が非常に少ないため、他の瓦の採用を検討しましたが、同じ風合いが出せないのので、塩焼き瓦にしました。改修計画を通常より早く確定させ、準備期間を長くすることで瓦の製作が間に合いました。

二 改修前の瓦は設置当時に既に焼きムラがあつたことと経年劣化により、色合いが多種多様でした。そのため、新しい瓦は色を微妙に変えたものを四種類用

意して葺き替えました。

三 スチール製の窓の改修については、耐久性、経費等の面からアルミサッシに変更することが最適と判断しました。本学同様にスチールサッシをアルミサッシに変更した英国大使館を見学し、改修前のデザインを最大限継承できる方法を取りました。

四 自然の風を取り入れられる様にすべての教室に網戸を設置しました。また、網戸設置による違和感を取り除くため、収納型のものを採用しました。

第四回高校生エッセイ・コンテスト選考結果発表 最優秀賞は二作品を選考

第四回高校生エッセイ・コンテスト「Silent Spring」沈黙の春

環境保護のバイオニア、レイチエル・カーソンに手紙を書こう」に国内外の高校生から多数の応募がありました。

選考の結果、十二名の入賞者が決定しました。

今回は、優秀な作品が多かったため、最優秀賞として初めて二作品が選考されました。

十月五日(日)、津田梅子記念会において最優秀者表彰式が行われ、志村尚子学長が最優秀賞を受賞した三谷絃子さんと鈴木邦彦さんを表彰し、三谷さんと鈴木さんが受賞作品を朗読しました。

◇第四回高校生エッセイ・コンテスト選考結果

応募総数 百三十編

(女性百十一名、男性十九名)

応募言語 日本語作品 九十九編

英語作品 三十一編

応募者の在学数 五十三校

最優秀賞

(賞金五万円・表彰)

三谷 絃子

(日本語) 聖園女学院高等学校三年

(神奈川県)

鈴木 邦彦

(英語) 横浜隼人高等学校三年

(神奈川県)

優秀賞

(賞金一万円)

片野 亮

(英語) 横浜隼人高等学校三年

森 ゆき乃

(神奈川県) 東京学芸大学教育学部附属

高等学校大泉校舎三年

中村 知浩

(東京都) 高等学校大泉校舎三年

横浜隼人高等学校三年

小山内 彩

(神奈川県) 横浜隼人高等学校三年

齊藤 真智子

(北海道) 旭川藤女子高等学校三年

菅原 佑香

(埼玉県) 西武学園文理高等学校三年

宇都宮短期大学附属高等学校三年

特別賞

(栃木県) 図書カード三千円

久保田 修平

(日本語) 筑陽学園高等学校三年

三浦 優希

(福岡県) 函館白百合学園高等学校一年

鈴木 匠

(北海道) 常葉学園菊川高等学校二年

審査委員長 椿清文

「沈黙の春」を書いたカーソンは、アメリカ合衆国の東部にあるペンシルベニア州の片田舎に生まれ、豊かな自然に囲まれて、のびのびと育ちました。彼女の自然に対する愛情がとて深かったがために、それが化学物質によって汚染され、生き物の命が破壊されていくのを見た時の悲しみは、喻えようもないものだったのでしょう。

今回のエッセイ・コンテストでも、豊かな自然と身近に触れ合っている地方に住む高校生の作品に、自然の美しさを賛美し、またそれが失われる悲しさを訴える感動的な表現がよく見られました。

カーソンは、『沈黙の春』のなかでいくつものことを訴えています。一つには、人間がいかに自然

や生態系を破壊してきたかを見抜くことの大切さです。皆さんのなかにもふるさとの森からいつしか虫たちが消えてしまったことに気づき、その原因が工場廃水や森林伐採にあることを指摘した人がいました。そしてもう一つは、私たちができることは何かを考え、それを実行にうつす工夫と努力です。手紙のなかで自然に対する人間の傲慢さを反省し、環境サミットなど国際的な協力による環境保護を訴えた人、農業を使わない農法やごみ問題等、身近な問題から取り組むことを提唱する人、それぞれアプローチの仕方は異なりますが、最終的なゴールは同じだと思います。あわただしい現代の生活のなかで、つい見失いがちな自然との共生問題を、『沈黙の春』は、多くの若者の心にしっかりと刻みつけてくれたようです。

最優秀賞を受賞した二作品は、グローバルな視点を持ちつつ、身近な現象を鋭く観察している点で秀逸でした。鈴木さんはカナダの先住民の言葉に自然と人間の関係の原点を見出した点、三谷さんは自然破壊の過程をナンを焼く釜に喩えた点がとても印象的でした。

皆さんの多くが、カーソンの夢を実現するために、強い決意と情熱を示して下さったことに、私たちはとても勇気づけられました。カーソンの願いを忘れることなく、この困難な問題をともに考えていきたいと思えます。

私がおもう進歩というものは、確固たる目的に対する方向性を持った変化のことです。地球上の文明

藤堂 幸香

(静岡県) 北鎌倉女子学園高等学校三年

(神奈川県)

*応募者全員に記念品(入賞作品集、津田梅子スピーチCD)を贈りました。

*入賞作品(最優秀賞、優秀賞)は本学ホームページでも紹介しています。

(http://www.tsuda.ac.jp/)

講評

レイチエル・カーソンが鳴らした警鐘を受け止めた日本の若者たち

― 百三十通の手紙から ―

「第四回高校生エッセイ・コンテスト」

審査委員長 椿清文

「沈黙の春」を書いたカーソンは、アメリカ合衆国の東部にあるペンシルベニア州の片田舎に生まれ、豊かな自然に囲まれて、のびのびと育ちました。彼女の自然に対する愛情がとて深かったがために、それが化学物質によって汚染され、生き物の命が破壊されていくのを見た時の悲しみは、喻えようもないものだったのでしょう。

今回のエッセイ・コンテストでも、豊かな自然と身近に触れ合っている地方に住む高校生の作品に、自然の美しさを賛美し、またそれが失われる悲しさを訴える感動的な表現がよく見られました。

カーソンは、『沈黙の春』のなかでいくつものことを訴えています。一つには、人間がいかに自然

や生態系を破壊してきたかを見抜くことの大切さです。皆さんのなかにもふるさとの森からいつしか虫たちが消えてしまったことに気づき、その原因が工場廃水や森林伐採にあることを指摘した人がいました。そしてもう一つは、私たちができることは何かを考え、それを実行にうつす工夫と努力です。手紙のなかで自然に対する人間の傲慢さを反省し、環境サミットなど国際的な協力による環境保護を訴えた人、農業を使わない農法やごみ問題等、身近な問題から取り組むことを提唱する人、それぞれアプローチの仕方は異なりますが、最終的なゴールは同じだと思います。あわただしい現代の生活のなかで、つい見失いがちな自然との共生問題を、『沈黙の春』は、多くの若者の心にしっかりと刻みつけてくれたようです。

最優秀賞を受賞した二作品は、グローバルな視点を持ちつつ、身近な現象を鋭く観察している点で秀逸でした。鈴木さんはカナダの先住民の言葉に自然と人間の関係の原点を見出した点、三谷さんは自然破壊の過程をナンを焼く釜に喩えた点がとても印象的でした。

皆さんの多くが、カーソンの夢を実現するために、強い決意と情熱を示して下さったことに、私たちはとても勇気づけられました。カーソンの願いを忘れることなく、この困難な問題をともに考えていきたいと思えます。

私がおもう進歩というものは、確固たる目的に対する方向性を持った変化のことです。地球上の文明

親愛なるレイチエル・カーソン様

私は、じんわりと灯る明かりを見るのが好きです。ろうそくや灯油ランプなどのぼんやりしたとし火に心が和み、とても落ち着くからです。

先日、父が出張先のマレーシアでナンを焼く釜を購入し、帰国しました。早速ナンを焼こうと炭を熾している父と妹の横で私は、炭火を眺めつつ、繰り返し「沈黙の春」の冒頭を読んでいた。本来ナン釜は、じっくり温めるそうですが、初めての試みのせいか急激に温度が上がって、釜にヒビが入ってしまいました。それを見ていてふと感じたことがあります。もちろん規模は違えど、この些細なエピソードが現在の自然破壊に至る過程に似ているのではないかと考えたのです。自然界を釜にたとえると人間の技術が火にあたたり、火の温度が一気に上昇したために釜にヒビが入った、つまり、科学が急速に進歩し過ぎたために自然界のバランスが崩れた、こう考えられると思いませんか。

私が思う進歩というものは、確固たる目的に対する方向性を持った変化のことです。地球上の文明

三谷 絃子

聖園女学院高等学校三年

(神奈川県)

【最優秀賞作品紹介】

はあらゆる方法で、場所で、速度で発展してきました。しかしその一方で、進歩という概念を盲目的に信じてきたが故に生じた欠陥が現代の環境問題です。最近では多くの人が環境問題に対して危機感を持ち始め、環境サミットで重点的に話し合われたり、二酸化炭素などの国際規制案が作成されたりしています。これを机上の空論に留まらせることなく、エコロジカルな思考が世界共通の常識である文明を再構築する契機とし、現状を良い方向に変えていくことが出来れば、あなたが後世に鳴り響かせた警鐘も静かになることでしょう。

ヴィクトルユゴーは『レ・ミゼラブル』の中で、「海よりも広いものがある。それは空である。空よりも広いものがある。それは人の心である。」と言っています。どんな時も際限なく広がり、時には一体化する海も空も、無限に変化し続ける人の心の大きさには敵わないのです。と言うことは、果てしない海や空をも包み込むことができるのは、私たちの内に存在する命ある心であり、それがいかに働きかけるかによって海や空や地上の自然たちが見せる表情も変わるのではないのでしょうか。ならば折角ですから、我々に喜びと幸福をもつて微笑みかけてほしいのです。

人間よりはるか昔に誕生し、長い歴史の上に鎮座している自然。

そして人間と共に暮らすようになり、調和し合ってきた自然。だからこそ、これからの未来もどちらか一方が欠けては、また一方の生命もやがて途絶えてしまうでしょう。あなたが鳴らした警鐘は、近づきつつある禍に対し何もせず己を淘汰させるも、出来る限りを尽くして禍を転じて福となすも、全ては私たち一人ひとりのちよつとした意識と積極的行動にかかっていることに気付かせ、改めて取り組み直す機会がまだあることを教えてくれました。この地球上にわずかに残っている自然の「とびつきの笑顔」を絶やすことなく、そして広げられるように、私はこれから、自然に対して思いやりの心を持つ大切さをより多くの人に伝える、種々く人になりたいと思っています。



最優秀賞作品を朗読する鈴木さん



最優秀賞作品を朗読する三谷さん

【最優秀賞作品紹介】

鈴木 邦彦 横浜隼人高等学校 3年（神奈川県）

Dear Ms. Rachel Carson,

When I read "A Fable for Tomorrow", I did not believe that your warning was given to the world as early as in 1962 because it seems as if you were talking at this moment.

In Fujisawa where I live, there is a 16.2 hectare forest called Shinbayashi Park. It used to be a favorite playground for all the children. We enjoyed running after dragonflies, and catching cicadas, grasshoppers and stag beetles. Nothing was more exciting than being with those insects in the woods.

However, when I was a second grader, these insects gradually disappeared. First dragonflies were gone, then fireflies, butterflies, crickets and beetles were gone, too. We were terribly disappointed to lose our forest friends. What happened in the forest? It was the drainage from a factory up the river that caused the water pollution and consequently made the wildlife endangered.

Not only in Fujisawa but throughout Japan, insects are disappearing. According to the recent Red Data Book, which is a list of endangered wildlife species of Japan, out of 30,146 species, 40 are completely extinct or threatened, 166 are rare, and 38 are endangered. It also warns that the number is increasing year by year.

What are the causes of extinction? The major cause is deforestation. During the past twenty years, about 300 million hectares of forest have disappeared. Other causes are a decrease in the number of ponds and swamps, and the contamination of rivers.

Ms. Carson, I have received from you a strong message not to be arrogant towards nature. I think we human beings should be aware that this arrogance will eventually cause us to choke ourselves. You reminded me of an experience I had during my school trip to Canada two years ago. There we had an opportunity to listen to a lecture by Bill Wilson, a chief of the Squamish Nation, which is an aboriginal group in B.C. What impressed me most about his lecture was that he said his people always owe nature. He showed us the Squamish Nation's dances praising god's creatures, such as hawks, bears, and ravens. He concluded his talk with a comment on nature. He said, "Nature is a splendid gift from our gods that we should pass down to the next generation absolutely unharmed."

I highly appreciate having met you, Ms Carson, in your "Silent Spring." You made me decide to be humble and responsible enough to keep the divine gift forever.

Sincerely yours,
Kunihiko Suzuki

Tsuda留学フェア開催

九月二十日(土) 十時～十六時、
本学AVセンターにて国際交流委員
会主催「第五回Tsuda留学フェア」
が開催され、雨天にもかかわらず
約百三十人の本学学生が訪れ
ました。

午前中は、協定校留学及び私費
留学から帰国したばかりの十四人
の本学学生による留学体験報告と
日本TOEFL事業部によるTOEFL
の説明がありました。恒例となつ
た最新の留学体験談と、留学の必
須条件ともいえるTOEFLの説明
に、参加した学生は熱心に耳を傾
けていました。

午後の部は日米教育委員会、プ
リティッシュ・カウンシル、ブリ
ティッシュ・エデュケーション・
オフィス、オーストラリア大使館、
フランス政府留学局による米国、
英国、オーストラリア、フランス



フランス政府留学局の個別相談ブースで相談する学生



個別相談ブースで熱心に相談する学生

への留学に関する説明と個別相
談、及び二十六人の留学帰国学生
による個別相談が行われました。
個別相談では主に留学先での勉強
や日常生活のこと、留学を実現す
るために必要な語学力、費用、奨
学金に関すること、留学後の就職
活動のこと等を参加した学生が熱
心に質問していました。フランス
留学に関しては初めての企画でし
たが、熱心な説明と相談が行われ
ました。

アンケートでは、実際に留学し
た学生から話を聞いたことで、留
学に対する気持ちが明確になり、
留学に対する希望が一層強くなつ
たという声が多数ありました。ま
た、英語圏以外の国の留学につい
ての情報の充実を望む声もあり、
来年度以降の課題となりました。

Tsuda留学フェアは、配布資料
も多く、留学に関心のある学生に
とっては、毎年見逃せない企画と
なっています。

加瀬明子さん

(情報数理科学科四年)
国体選手に選ばれる

本学のフィールドホッケー部に
所属している情報数理科学科四年
の加瀬明子さんが、二〇〇三年国
民体育大会のフィールドホッケー
大会に千葉県代表メンバーとし
て、試合に出場されました。その
時の感想とコメントをご本人より
いただきましたのでご紹介しま
す。

「普段は大学のグラウンドで関
東学生リーグの試合に向けての練
習をしています。昨年、知り合
いの誘いで千葉県成年女子のチー
ムに入り、現役大学生の卒で高校
生や大学生を相手にした練習試合
に出場していました。

今年、私は千葉県体育連盟から
国民体育大会の千葉県代表メンバ
ーに選出され、六月から八月の三
ヶ月間、大会に向けての練習に励
んできました。千葉県代表チーム
のほとんどの選手がフィールドホ
ッケーの経験年数が浅く、他県の
出場チームに比べて不利な点が多
くありました。しかし、固いチー
ムワークで一回戦突破を目標にし
て、監督、コーチと一丸となって、
特に個人技に力を入れたトレーニ
ングを積み、試合での失点をでき
るだけ少なくするために男子チー
ムを相手に練習を積み重ねてきま
した。予選の一回戦の相手チーム
は、埼玉県代表でした。埼玉県代

表チームは、日本代表を三名擁し
て、社会人リーグにも参加してい
る強豪でした。私は、レフトハー
フという攻守の難しいポジション
を任せられ、試合にフル出場し全力
を尽しましたが、残念ながら一回
戦の厚い壁は崩せず予選で敗退し
てしまいました。しかし、大学で
の練習や関東学生リーグの試合で
は得られない経験や技術をたくさ
ん学ぶことができ、多くの友情も
得ることができました。

大学での現役生活も残り少なく
なりましたが、国民体育大会予選
の千葉県代表チームで経験したこ
とを卒業後も大学の後輩達に伝え
ていき、フィールドホッケー部の
部員が楽しく、より一層活躍でき
るように貢献できればと思ってお
ります。そして、来年こそは千葉
県が予選一回戦を突破できるよう
に、自分の力を伸ばしていく努力
をしていきたいと思っています。」



代表チームのユニフォームを着て練習する加瀬さん

在学生に好評!

軽井沢セミナーハウス

九月十一日から十三日までの三
日間、私たち国際関係学科の大島
ゼミ(三年)は軽井沢セミナーハ
ウスを利用してセミナー合宿を行
いました。

軽井沢セミナーハウスは、旧軽
井沢の静かで落ち着いた雰囲気
の別荘地帯にありながら、歩いて
すぐの旧軽通りではおいしいパンや
チーズ、ワインも買うことができ
ます。

セミナー合宿は、食事と睡眠以
外の時間は研究発表に終始するハ
ードなものでしたが、とても充実
した時間を過ごすことができました。
また、大学の教室を離れて軽
井沢でセミナー合宿を行ったこと
は、単なるゼミ発表にとどまらず
ゼミの仲を深める良い機会でもあ
りました。



活発な意見交換が行われる研究発表

よろしく願います。
新任専任職員紹介
【職員】



平塚 直樹

①所属 総務課

②趣味 旅行（冬はスキーを兼ねた旅）

津田梅子記念会& ホームカミングデー

十月五日（日）、津田梅子記念会&ホームカミングデーが行われました。

志村尚子学長ならびに久保内総子津田塾大学同窓会長代理の挨拶に引き続き行われた津田梅子記念礼拝では、田中祥子保健体育教室教授の司会で、植田仁太郎氏（日本聖公会東京教区主教）による「TSUDA Umeko - an Anglican?」と題する説教が行われました。

午後のプログラムは、第四回高校生エッセイ・コンテストの最優秀賞の表彰式（関連記事二面）と梅子スカラシップ授与式（参照本紙四十八号）で始まりました。

第四回高校生エッセイ・コンテスト最優秀賞を受賞した三谷紘子さん（聖園女学院高等学校三年）

③自己紹介 学生時代はあまり勉強せず、アルバイトと飲み会で忙しい日々でした。以前は、宅配便を取り扱う民間企業に勤務していました。まだ、少し緊張していますが一日も早く大学に慣れてがんばりたいと思っています。

大学生生活は本当にあつという間に終わってしまうので興味・関心を持ったことを大切に、またお友達も大切にしてください。

と鈴木邦彦さん（横浜隼人高等学校三年）に志村学長が賞状と賞金を授与されました。

梅子スカラシップ授与式では、志村学長から梅子スカラシップ受給者に賞状と奨学金が授与されました。

続いて、新コース「多文化・国際協力コース」誕生を記念してパネル・ディスカッション「いま、地球を舞台に働くということーその希望と課題」が行われました。

パネリストに本学卒業生の藤井千賀子氏（外務省大臣官房国際報道官室）、伊藤芳子氏（株）ボストンコンサルティンググループ）、押尾和美氏（国際交流基金日本語国際センター）、崎坂香屋子氏（国際協力機構医療協力部）、山田奈穂子氏（環境省環境調査研修所教務課国際研修企画係）を迎え、

国技マリ国際関係学科教授の総合司会、丹羽敏雄情報数理科学科教授

「在学生父母のための オープンキャンパス」開催

十月五日（日）、本学AVセン

ターにおいて「在学生父母のためのオープンキャンパス」を開催しました。

今年是全国各地から約百名の方々がご出席くださいました。

青柳龍也広報会議議長が開会の言葉を述べた後、志村尚子学長がご出席の方々に挨拶いたしました。

授の司会で行われました。

様々な分野で活躍しているパネリストからの、現場でどのような喜びを持ち、苦労を経験されたか、様々な問題をどう対処し、乗り切ってきたかというお話しは聴く者に実践の場と素直にさを感じさせ、問題を身近にさせてくれました。また世界を舞台に活躍していらつしやる方々から「世界のどこに行っても津田の卒業生に会い、びつくりした」、「津田の先輩達の立派な仕事ぶりに大変影響を受けた」等の発言には、とても励まされる気がいたしました。

このような頼もしい先輩方のご指導とご助力により、「新コース」がより実りあるものに作り上げられていくことを感じさせてくれる会となりました。

交流館では、卒業生の南塚直子さんの「絵本原画展」、ならびに同窓会バザーが行われました。

理事会・評議員会

九月三十日（火）、第百五十五

回理事会・第百三十回評議員会が、経団連会館で開催されました。

二〇〇三年度（平成十五年度）補正予算（案）に関する件及び二〇〇四年度学費（案）に関する件について審議され、可決承認されました。

続いて、大型スクリーンを使いながら丹羽敏雄学長補佐（学務担当）による大学近況説明と来住伸子学生委員長による学生生活紹介が行われました。

大学近況説明では、「多文化・国際協力コース」についての概要説明、交流館の生涯学習プログラムや卒業生による自主フォーラムへのサポート、財務状況、（財）大学基準協会による第三者評価の申請のこと等について説明がありました。

学生生活紹介では、各学科の就職状況、留学支援体制、そして新しくできた「海外活動奨励金」という海外への留学やボランティア活動をサポートするための奨学金についての説明がありました。

説明会の後、会場を移しての個別相談会や在学生が案内する施設見学会が行われました。

参加されたご父母の方からは「子供の毎日の生活が想像できてよかった」、「大学の財務状況や就職・留学についての話を聞けてよかった」といった感想が寄せられました。

ました。

また、津田塾大学教職員の二〇〇三年度給与改定（案）の件、学費返還訴訟の件、戸隠寮取り壊しの件、津田塾大学入試状況及び今後の動向の件及び特色ある大学教育支援プログラム応募結果の件について報告が行われました。

訃報 本学評議員 伊藤俊枝氏逝去

本学評議員の伊藤俊枝氏が去る九月二十四日逝去されました。

伊藤氏は、二〇〇一年六月に津田塾大学同窓会長に就任されて以来、津田塾大学同窓会の運営にご尽力されました。また、本学評議員として、大学運営にもお力添えいただきました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

津田塾大学同窓会から、故伊藤会長を偲ぶ会についてのご案内がありました。

ご出席の方は、同窓会事務局までご連絡ください。

日時 二〇〇三年十二月六日（土）

十三時三十分～十五時

会場 津田塾大学同窓会会議室

（JR千駄ヶ谷駅、地下鉄大江戸線国立競技場前 津田ホール

二階）

お花料 千円（当日は、平服でお

出かけください。）

連絡先 津田塾大学同窓会事務局

電話 〇三・三四七八・一九七二

Fax 〇三・三四〇二・七七三〇

オープン・リサーチ・センター 講演・研究会開催

オープン・リサーチ・センターは、今年度、文部科学省「オープン・リサーチ・センター整備事業」の支援を受けて開設されました。

オープン・リサーチ・センターでは、「多文化・国際協力コース」の開設と関連していくつかの講演会を開催し、研究会を発足させることになりました。第一回目の講演会は、十月三十一日(金)に

「世界で一番いのちの短い国」と国境なき医師団の活動」と題し、山本敏晴氏(医師)によるものでした。開催時間が五時限目終了後にもかかわらず、約四十名の学生が参加しました。



シエラレオネでの活動について講演する山本氏

この講演会に参加した国際関係学科一年長江さをりさんは、「本当の国際協力とは、その場限りの自

己満足で終わらせるのではなく、未来へ続くように働きかけなければならぬ」という山本さんの言葉は自分自身の国際協力に関する考え方を見つめ直すよいきっかけとなりました」と感想を述べています。

今後の講演会(開催時間はいつでも十八時から二十時)は次の通りです。詳細は、教務課(〇四二・三四二・五一一三〇)までお問い合わせください。

第二回 題目 「障害施策の国際的変遷」

日時 十一月七日(金)

講演者 中西由起子 氏(アジア・デイスアビリティ・インスティテュート代表)

第三回

題目 「バングラデッシュで母子保健にかかわる人材を育てるーJICA母子保健プロジェクトよりー」

日時 十一月二十日(木)
講演者 石原由紀 氏(産婦人科医師)

第四回

題目 「知的障害者の自立を目指したマレーシアの作業所」

日時 十一月二十一日(金)
講演者 中澤健 氏(NPOアジア地域福祉と交流の会理事長)

第五回

題目 「途上国の医療行政」

日時 十二月十一日(木)
講演者 新田秀樹 氏(大正大学人間学部教授)

ご支援・ご協力に感謝します。

ご寄付ご芳名

(二〇〇三年十一月五日現在、経理課受付分・敬称略)

〇教育研究施設設備充実のため

間瀬三重子 殿 二十万円

三十八年卒業生四十周年

同期会 殿 十万円

匿名 殿 三万円

岩淵眞實 殿 五百万円

故一又民子氏遺族代表

稲田和子 殿 五百万円

Frank J. Barz 殿 千ドル

塚本榮 殿 六十万円

〇花と緑資金

卒業五十周年記念英文学科第二

回生クラス会、数学科第一回生

クラス会 殿 二十万円

〇奨学金として(優秀な英文学科

学生の賞のため)

中尾瑞枝 殿 十八万円

〇生涯学習資金として

(アフガニスタン女性教員

研修プログラム支援)

津田塾大学同窓会 九万五千元

津田塾大学同窓会 十二万円

新刊紹介

『夢を追ってーランゴレンの貴婦人たち』

メアリー・ゴートン著/古木宜志子

(英文学科教授) 訳・解説

シンポジウム2003

「留学ー過去、今、未来」

留学を多様な視点から考える

情報革命の時代といわれる今

日、外国についての情報を容易に

大量に収集することが可能になり

ました。しかし情報を間接的に集

める手段がいかに進歩しようと

も、古代ギリシャの時代からある

留学ー異なる文化をもつ人と人との

触れあいと学びあいの魅力は

増すことはあっても、色あせるこ

とはありません。

日本人の海外留学と外国人の日

本留学を一層意義あるものにする

ために、多様な経験をおもちのパ

ネリストと一緒に、留学について

考えてみませんか。

パネリスト

井上和子(神田外語大学前学長)

ブルース・バートン(桜美林大

学国際交流センター長)



申込み・問い合わせ先
津田梅子記念交流館
電話 〇四二・三四二・五一四六
<http://www.tsuda.ac.jp/koyukan/>
※企画展「津田梅子の創設した日本婦人米国奨学金日本女性に留学の機会を」を十月五日(日)より図書館二階の津田梅子資料室にて開催(写真左)しています。どうぞご覧ください。

〔前号訂正〕

本紙前号の「梅子スカラシップ受給者決定」の中で「受給者にはそれぞれ二十万円を上限」とは、「梅子スカラシップ(学業)には十万円を、梅子スカラシップ(サークル活動等)には二十万円を上限」としての誤りでした。訂正してお詫びいたします。